

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.056 }
2025 10.31

特集 ONE TEAM プロジェクト

学生プロジェクト活動紹介 (YUME column) / ゆにまる



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。

ごあいさつ



2025年度も半年が過ぎました。4月から9月にかけて、学生たちは、さまざまな地域活動・プロジェクトに積極的に取り組んできました。季節の移り変わりとともに

に、人との関わり大切さや地域に貢献する喜びを実感する機会も増え、教室の外での学びが広がっています。こうした経験は、学生一人ひとりの成長につながる貴重な時間となっており、今後の活動にも大きな意味を持つことでしょう。未来ある学生たちの成長と、地域のますますの発展のため、「地域を知る」、「地域に参加する」、「地域活動に対して働きかける」の『ゆめ』の3ステップを見守りたいと思っております。
(地域連携課 課長補佐 丸山勝弘)



学校法人松本学園
松本大学

ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域と交流しながら活動すること、地域に生きる人々の想いを知ることが目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、5月から9月までに行った活動を紹介します。



6月 松本を知る お城下町フィールドワーク



6

6月21日(土)、地元松本で地域の方々のお話を伺いながら地域を知るフィールドワークを実施しました。5月の「BBQ」プロジェクトに続き、新入生向け企画の第2弾です。新入生が地元松本を知らないまま日々が過ぎていくもったいなさや地域へ実際に飛び出し住んでいる方々と交流しながら地域を知り課題を自分事として捉えるイメージをつかむのが目的です。

舞台は、大正ロマンや映画文化を地域づくりに生かそうとしている上土(あげつち)を中心としたお城下町です。先輩たちが事前にお城下町の昔の画像を集め、見所をチェックし、ポイント制でゲーム仕立てのシナリオを構想しました。

当日は4チームに分かれ、グルメを巡り、地域に関するお題から回答を求めて彷徨い、昔の写真から現在の場所を特定したり、随所にある古井戸を訪ねたり、時には地域の方々と交流し、それぞれのチームワークでポイントを稼ぎながらお城下町一帯を攻略しました。最後に、上土に集結し、ポイントを集計しながら各グループが集めた地域情報から様々な街の横顔を共有し、時代の変遷とともに街も生きていること、また地域課題を見つけその先を考えるには、地域の方々との交流からという思考やそれを実践する勇気を味方にする事ができました。



学生の感想



その場所の井戸の歴史などをお店の人を通して知ることができました。同じ『ゆめ』内にも関わることのない人や自分では絶対行かないお店、知らない場所など関わることができて良い経験になりました。

(総経1年 佐藤真誠)

5月 「ゆめ交流会」新入生歓迎会BBQパーティー

～『ゆめ』にいとると楽しいから～

5 5月31日(土)松本市梓川の梓水苑にて、新入生歓迎会を開催しました。初の取組みとして、地域活動にワクワク感を持つ新入生を対象に、まずはアイスブレイクやBBQで知らない人と交流する距離感や接し方を体験するのが目的です。先輩たちが新入生のために考えた「真っ先に体験すればこれからの大学生活が変わるはず」と企画したプロジェクトです。「だるまさんがころんだ」、「ジェスチャーゲーム」、昔ながらの遊びを変形させ、チームプレイに変えたり、それぞれが自分のキャラクターを生かした役割を演じて楽しみ方に一味加えたり、自由な発想と創意工夫が満載でした。そのあとはBBQパーティ、先輩・後輩入り乱れ話し込み、席替えしたり、おいしく楽しいひとときが過ぎました。多くの情報が



共有され、プロジェクト相互の理解が深まり、今年度は複数プロジェクトへの参加やプロジェクト間の連携活動の展開が期待できます。『ゆめ』にはいつも何かがある、楽しさの共有できる時間と居場所(いつでも居ていい場所)、『ゆめ』にいとると楽しいからが共通の想いとなり、新入生は地域活動に必要なコミュニケーション力を体得することができました。



(ジェスチャーで)その他全員、オニの正面へ移動～オニを務めてくれた仲間への感謝のサプライズ～

オニに敬意花を捧げる

だるまさんがころんだ!(何故か誰も捕まえてくれないオニ)

何だ?このシチュエーション。もはやオリジナル「だるまさん～」じゃない。

学生の感想



最初はそれぞれ友人同士で固まってしまう、ぎこちない雰囲気だったけれど、レクやBBQを通してだんだん打ち解けてたくさん喋れるようになって嬉しかったです!今後も各プロジェクトを超えて『ゆめ』の仲間と関わる機会がたくさん増えればと思います!

(観光1年 渡邊優月)

9月 雨にも負けず風にも負けず

～上高地の魅力を探る旅～



学 学生と地域住民との恒例のバスハイク。今回は日本有数の観光地、上高地へ行き初秋の魅力を堪能します。行く前から連日、天気予報にとらめっこ。どうやら当日は雨予報らしい…。そして迎えた9月18日(木)当日。深夜から朝方にかけては雨が降っていたものの、大学出発時には晴れ間も見え、心弾ませながら出発。道中も雨に祟られることなく無事に上高地へ到着。バスを降り河童橋まで向かい、集合写真を撮り各々写真撮影を楽しみました。そして「さあ、これから存分に散策だ」と、思ったその直後、激しい雨と風が襲い雷鳴も轟き、慌てて軒下等に避難します。参加した全員が「せっかく上高地まで来たのに、こんなに激しい雨風かぁ～」と落胆します。そんな中でも持参したお弁当やおにぎりを頼張り、雨が止むのを待ちます。結局、雨風のせいで上高地滞在時間はわずか2時間。それでも皆、「こんな上高地の旅もいい思い出だね」と、言葉を交わしており、帰りの道中も終始明るく天気には恵まれませんでした。和やかな旅となりました。



学生の感想



昼食を一緒に食べさせていただいたり、河童橋までの間など、交流の時間が多くあってよかったです。地域の方が乗鞍でご友人と買った熊よけの鈴を付けてきたのだと教えてください、心が温くなりました。

(観光4年 大原さくら)





珈琲ひまわり

珈琲ひまわりが始まって2年目、地域の皆様と学生のコラボにより月一回ペースで開店しています。珈琲の味も回を重ねる度にコクと酸味が絶妙な香りを醸し出し、学生の会話や応対も味が出て常連客からの評判も良くなってきました。マンデリンからケーキ、カレーを食べてまた珈琲と開店から閉店まで楽しんでいらっしゃるお客様もいます。こっそり漬物をもってきてカレーを食べるご近所の方々は、「珈琲ひまわりを楽しみにしているんだよ」と言ってくださいます。ここで仲良くなった近所の方は「温泉旅行も行ってきたよ」楽しく話してもいます。最近では遠方よりお越しになり、口コミで寄って来たというお客様もいます。学生がテーブルに



座って話をする姿に驚いて「いいですね、参考になります」と持ち帰って行きました。マスターご用達のBGMを聞きながら地域の方と飲む珈琲は、大勢の皆様の出会いと癒しを生み出し、いつまでも名残惜しい居場所を作ってくれているように感じます。



学生の感想



普段関りが少ない年齢層の方々との交流で自分の知識や価値観を広げられ、とても勉強になりました。またこの活動によって、交流した住民の方々からの感謝を頂けて、苦手だったコミュニケーションの向上ができ、自信をつけることができました。
(観光3年 古川愛美)



ええじゃん栄村 まちづくりを学ぶ



今年も年度初めの春の普請(水路整備)から始まり、田植えに稲刈りと、小滝集落での交流活動を活発に行っています。ええじゃん栄村のメンバーになってくれた1年生も多く、これまでにないくらいの大人数で賑やかです。田植えの際には長野県北部地震の話を変えて伺い、初参加の学生も栄村で活動を始めたきっかけを学びました。

また、今年は夏合宿を行い、BBQやレクリエーション、花火に盛り上がりました。2日目には栄小学校の児童と体育館でスポーツをしたり、地域の公民館で行われていた縁日に一緒に参加し、焼きそばを食べたり、輪投げをしたりと楽しみました。学生は子どもたちの無限の体力に汗だくになっていましたが、メンバー同士学年を越え、親睦が深まった夏合宿になったと思います。今後も一つひとつの活動で地域の方々との交流や学びも大切にしていきたいです。



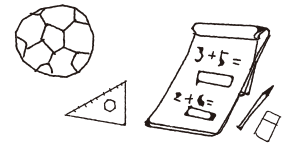
学生の感想



前期を終えて一番感じているのが「安堵」です。リーダー就任時は参加者が少なく不安でしたが、4月以降多くの1年生が参加し意欲を見せてくれたことで、来年以降も継続できると感じました。プロジェクトやリーダーとしての反省点もあると思うのがこれが一番大きいです。(総経3年 小林優人)

子どもの居場所づくりに貢献

～寺子屋賑わう～



子どもの居場所づくりに一役買っている「寺子屋」は、今年度も毎月第3日曜日を中心に月1回開催しています。毎回、多くの子どもたちが集い、その時々季節に合った趣向を凝らした企画や食べ物を提供し大いに盛り上がっています。子どもたちも毎回とても楽しみにしており、嬉しそうにはしゃいだり、笑いの絶えない雰囲気が印象的です。学生たちもそんな子どもたちの姿がとても張り合いで、小学生の様子から毎回多くのことを学んでいます。

また、8月の寺子屋には高綱中学校から8名の生徒が参加し、一緒に盛り上げていただきました。水遊びや花火をして中学生も小学生と一緒に楽しみながらも、ちょっとした気配りや心遣いにはとても素晴らしいものがありました。

今後も単なる『小学生の居場所づくりの提供』だけにとどまらず、誰もが笑顔で楽しめる企画や運営に心がけたいと張り切っています。



学生の感想



前期を振り返ると、月1回・3時間の寺子屋を形にするには多くの準備が必要だと実感しました。子どもたちや学生が「また来たい」と思える場になるよう工夫を重ねています。寺子屋はリーダーだけでなく、参加してくれる皆の存在こそが核であり、後期も出会いを大切に走り続けたいです。

(スポ2年 佐藤美雪)

ホッとひといき、嬉しい時間 「茶房ひといき」

毎回受付では、「〇〇さん、今回も暑いわざわざ来てくれてありがとう。嬉しい～っ」、「毎回毎回楽しみにしているだよ」など、出迎える学生と地域住民との言葉のやり取りに癒されます。毎回お見えになる地域住民とともに、コーヒーを飲みながら他愛もない話に花が咲きます。クイズ、ゲーム、健康体操、歌、踊りなど、様々な趣向を凝らした企画に



学生の感想



リーダーになって私にできるのかと不安になることもありますが、できることを精いっぱいがんばりたいと考えてます。前期では慣れておらず初めてのことも多かったのですが優しい地域の方や先輩方に沢山助けてもらい、なんとか乗り越えることができました。

(観光2年 塚田花女)



大きな笑いが飛び交います。また、7月の「茶房ひといき」には高綱中学校から5名の生徒も参加し、更に若い力が加わったことで、いつも以上に会話に花が咲き盛り上がりしました。

毎回、あっという間に2時間が過ぎ去ります。帰り際には後ろ髪を引



かれる思いですが、「また来月も待っているね。体に気を付けてくださいね」、「今回も楽しかった。いつもありがとう」など、心温まる言葉が飛び交い余韻に浸っています。



学生プロジェクト
活動紹介

すすはなプロジェクト ひと夏の青春



毎年運営に関わらせていただいている「すすき川花火大会」。今年もポスターやうちわのデザインを考えたり、ラジオドラマの脚本・収録をしたり、ラジオ生出演や上高地線広告での広報、当日の司会など多岐に渡って活動しました。花火大会の前には、実行委員会や地域の皆さまと河川敷の草集めをしたり、花火の燃えカスを拾ったりと、安全に楽しんでいただけるような取り組みもしています。

今年新たに取り組んだこととしては、FMまつもと様でのラジオ番組制作です。30分のラジオ番組の構成・脚本・収録などを担当の方にご協力いただきながら行いました。初めての試みで苦戦しながらも、メンバーで協力し



合って進めていきました。実行委員長、副実行委員長の想いを伺ったインタビューも番組内で紹介しました。盛りだくさんな準備期間でしたが、当日みんなで観た大きな花火が特別綺麗に観えたように思います。

学生の感想



リーダーとして、プロジェクトが30人ほど増え大所帯となり、人数を活かした新しい活動にも挑戦することが出来ました。前期を終えて、今いるメンバーに継続して参加してもらうことが課題となってくると思うので、より参加しやすく楽しい活動を行えるようにしていきます。

(観光3年 小股祐希)



スマホ講座が地域の居場所に

地域の高齢者向けに実施しているスマホ講座ですが、地域からの要望が多く、現在は新村・大手・東部と3つの地区で定期的に開催しています。参加される方々は大変熱心で、聞きたいことをメモして持ってこられる方もいたり、聞きたいことはなくても、他の方の相談と一緒に聞くことで新たな勉強になる、という方もいます。『ゆめ』のスマホ講座の魅力は、参加者一人ひとりに寄り添い相談にのること、それぞれのペースに合わせて参加していただけることです。また、スマホ講座を通じてお知り合いができた、定期的に顔を合わせる場にもなったりと、地域のひとつの居場所になっていると感じます。

学生の感想



当初1地区から3地区にまで成長し、講座開催数も累計60回を超えました。新規・継続で参加していただける方も多く、根強いニーズを感じています。「わからないがわかる」をテーマに、地域を支え助ける存在として、これからも活躍していきます。

(観光4年 鍵田輝)



こどもあそび隊

～親子揃って賑やかに～



未就学児を対象としたプロジェクト「こどもあそび隊」は、6月と8月の2回実施し、それぞれ15名近い子どもに参加いただき、学生の企画で楽しみました。

6月は主に、お絵かき、ぬり絵、折り紙などの遊びを中心に楽しみ、8月はオリジナルのうちわ作りを中心とした工作で楽しみました。

対象が未就学児ということで、保護者も一緒になって参加します。束の間の時間ではありますが、保護者にとっても我が子と触れ合う貴重な時間になり、学生もそのことを嬉しく感じています。学生も親と同じ目線で接することで、子どもたちとの距離を縮め、学ぶことが多いようです。今後も子どもたちや保護者にとってニーズの高い企画を計画し、喜んでもらおうと張り切っています。



学生の感想



私たちは子どもと遊ぶのが好きで集まったグループです。どうすれば子どもたちや親御さんに喜んでもらえるのか難しいですが、メンバー内で様々な案を出し合い、企画・制作したものを満面の笑みで喜んでくれた時はとても嬉しいです！今後も子どもたちと目一杯遊びたいと思います！

(観光2年 倉科歩未)



Coder Dojo 松本 @ 松本大学



学生の感想



初めは子どもたちにプログラミングを教える事は大変だと思っていましたが、分からないことは社会人の人たちに聞くことで楽しく子どもたちと関わる事ができました。何回か運営を手伝って司会などもやらせて頂き、人前で話すのが苦手でしたが克服できました。(教育4年 太田皓一)

Coder(コーダー)とは、Code(コード)=プログラムのもとになる文を書く人たち、Dojo(ドージョ)は日本語の「道場」。2011年アイルランドで発祥した非営利のプログラミング教室がCoder Dojoです。子どもたちがプログラミングを楽しみながら自ら学ぶコミュニティをつくっていくのが特徴で、現在は112カ国2,200以上、日本では230以上のDojoがあります。長野県ではこの地域活動プロジェクトに位置付けられたDojoが第1号です。参加する子どもたちをNINJA(忍者)と呼び、社会人や大学生のメンターがコンピュータ大好きNINJA軍団のコミュニティをまとめています。学習用プログラム言語スクラッチ(Scratch:日本語の命令がブロックのカケラのように図式化され、ブロックを積むようにプログラミングできる)により、ゲームづくりやコンピュータで世の中を便利に変えるプログラムづくりに挑戦しています。最近のDojoでは、ドローンやロボットカーを動かしたり、生成AIが子どもの描いた落書きをもとに作詞・作曲・編曲をして歌唱・演奏するデモンストレーションがありました。先進的な情報機器利用を目の当たりにして、自分たちが学ぶプログラミングの先に、夢やイメージをどんどん膨らませるコミュニティ空間ができあがっていきます。



高大連携支援会「ゆにまる」の 「高校生合同販売デパートゆにっと」サポート

「ゆにまる」は、高校生のコミュニティビジネスの学びを検証する場として例年開催されている「高校生合同販売デパートゆにっと」をサポートする有志学生団体です。高校生の学びを実践的に支援するために「ゆにまる」自体も大学生の視点で、地域の困りごとを起点にビジネスモデルの上流から下流までを構想してビジネスの創生に取組みます。メンバーには、高校時「デパートゆにっと」に参加し「ゆにまる」の活動を知って入学し、高大7年間で学ぶ学生も増えました。

今年度第13回の「デパートゆにっと」は、昨年度までの井上百貨店本店からアイシティ21へ会場が移り、9月6日(土)～7日(日)に開催されました。事前に開講した「マーケティング塾」では「ゆにまる」から「開発商品に何らかの文脈をつくってプロモーションする」ことを提



案と一緒に試行しました。「ゆにまる」も昨年度開発・試作した朝日村産ビーツと安曇野産チーズを使ったダブルチーズケーキの商品化を進めており、井上百貨店ははじめ関係企業や団体に助言をいただきながら「あさひのルビーフロマージュ」とネーミングし、プロのデザイナーの力を借りてプロモーション活動をしたりテストマーケティングを繰り返したりしてきた経緯を説明し、高校生の地域活動をサポートすることができました。

学生の感想



例年、「デパートゆにっと」は高校生の販売会のサポートをしています。高校生は様々なお客様にそれぞれどんな声かけをすれば良いか、どうすれば美味しくだけでなく想いを届けられるか等、試行錯誤していました。大学生も高校生の見本になりつつ、相談も受けながら共に考えてきました。この「デパートゆにっと」が高校生と地域を繋ぐ文化として根付くつあり、嬉しく思いました。(観光3年 小林史弥)

支援会「ゆにまる」新たなコミュニティビジネスに挑戦 ～上土にEMOい「集いの杜 喫茶あこのころ」をオープン～



上土の下町会館1階に商店街振興組合が運営する「カフェあげつち」があります。日曜日が定休日ですが、観光で訪れる人々が増えまちづくりを推進しようというときに、カフェがフローズしているという困りごとがありました。

そこで、6月から毎月第4日曜日は「ゆにまる」がコミュニティカフェを運営しています。「カフェあげつち」のお手伝いではなく、大学生が運営する別のお店です。上土の皆さんにまちへの想いをお聞きし、「大正ロマン」や「多くの人が集った映画文化がかおる街並み」をキーワードに、「カフェ」



でなくあえて「喫茶」と呼び上土ならではのオシャレやエモい感じを醸したい、地域の方々だけでなく来訪される多様な方々も、いろんな人がふらりと「つどってくる杜」のような存在にしたい、人それぞれの懐か

しさを、郷愁、大切な想いを代表するワード「あこのころ」をキャッチイにしたい。それがお店の名前になりました。昨年度、『ゆめ』でオープンしたコミュニティカフェ「珈琲ひまわり」は、地元新村のロケーションで地域住民、高齢者、学生、旅行者の間で隔てのないコミュニケーションが起きています。上土では、来訪者がグローバル、お城下町、独特なまちの文化等、コミュニティビジネスに生かすポイントが異なり、商店街にも大小のイベントを同時開催していただいたり、時には大正コスプレもしながら、何が起きるかワクワク感をもって新たな地域づくりに挑戦しています。

学生の感想



「喫茶あこのころ」は今年6月から新しく始めた活動の1つであり、大正レトロの街である上土で地域の人を初め、観光客の方たちの憩いの場所にもなっており、大学内では経験できない様々な交流を経験することができました。

(総経3年 濱希美)

編集後記

収穫前の稲穂は黄金色、爽やかな風に揺れるコスモスは赤・白・ピンク、薄く流れる雲を覆う澄んだ空はブルーに輝いています。夏の日差しは真っ赤に、中秋の名月は鮮やかな山吹色でした。コロナ世代の学生の高校時代はセピア色を想像しますが、大学に入学してそれぞれの色を出し、より濃い活動が行われています。秋も文化祭にプロジェクト活動にワンチームに楽しんでもらえることを願っています。(倉田吉春)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階

開館日時: 月～金 10:00～18:00

TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216

E-mail: community@t.matsu.ac.jp



https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/



CHIRIKOHORINOHOSUUME